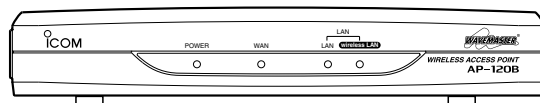




WIRELESS ACCESS POINT **AP-120B**



第1章	WAN関連設定～PPPoE	3
第2章	WAN関連設定～DHCP	11
第3章	LAN関連設定	19
第4章	無線LAN設定	35
第5章	本体設定	49

はじめに

本書(取扱説明書[活用編])は、付属の取扱説明書[接続編]にしたがってインターネットやLANに接続できていることを前提としています。

はじめて本製品をお使いになるときには、取扱説明書[接続編]を最初にお読みになってから、本書をお読みください。

本書の説明に使用しているWWW設定画面の色合いは、お使いのディスプレイによって異なることがあります。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記……本製品の設定画面名称やその画面にある各項目の設定値などを(「 」)で囲んで表記します。

[] 表記……本製品の設定メニューや設定項目の名称などを([])で囲んで表記します。

< >表記……本製品の設定画面にあるコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

ルータタイプモデム接続 表記

ルータタイプモデムに接続する場合、設定して動作する項目を表します。

商標登録について

©アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icomロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

©WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

©Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

©Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

©その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

1.WAN側設定	4
2.WAN側詳細設定	7
3.アドレス変換	9

1 WAN関連設定～PPPoE

1.1.WAN側設定

- ▶ WAN側設定
- ▶ WAN側詳細設定
- ▶ アドレス変換設定

回線接続中は設定できませんので、ご注意ください。

本体の時刻：2002年01月01日 10時12分

接続状況	
未接続	切断 ①
回線種別 ②	PPPoE(自動接続)
DNSサーバ ③	-
本体側のIPアドレス ④	-
相手先のIPアドレス ⑤	-
接続時間 ⑥	- 時間 - 分 - 秒

回線設定			
登録 ⑦	取消 ⑧	接続 ⑨	
回線設定 ⑩	WAND1	選択 ⑪	削除 ⑫
接続先名 ⑬			
IPアドレス ⑭			
サブネットマスク ⑮			固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
デフォルトゲートウェイ ⑯			
プライマリDNSサーバ ⑰			
セカンダリDNSサーバ ⑱			

接続設定	
ユーザID ⑲	
パスワード ⑳	

登録 取消		登録して再起動	
登録 ㉑	取消 ㉒	登録して再起動 ㉓	回線種別の設定は再起動後に有効になります。

回線種別

PPPoE DHCP ㉔

- ①<切断>ボタン プロバイダーとの接続を強制的に切断します。
- ②回線種別 ご契約になっているプロバイダーとの接続方式(「PPPoE」)を表示します。
- ③DNSサーバ ご契約になっているプロバイダーのDNSサーバアドレスを表示します。
- ④本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑤相手先のIPアドレス ご契約になっているプロバイダーのIPアドレスを表示します。
- ⑥接続時間 ご契約になっているプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックします。
- ⑦<登録>ボタン 「回線設定」画面(⑬～⑱)および「接続設定」画面(⑲、⑳)の内容を確定するボタンです。
- ⑧<取消>ボタン 「回線設定」画面(⑬～⑱)および「接続設定」画面(⑲、⑳)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨<接続>ボタン 「回線設定」画面(⑬～⑱)に表示している相手先へ「接続設定」画面(⑲、⑳)に表示している「ID」と「パスワード」で手動接続するボタンです。そのときの接続状況を「接続状況」画面に表示します。

1. WAN側設定(つづき)

本体の時刻 : 2002年.01月.01日 10時 12分

接続状況	
未接続	切断 (1)
回線種別 (2)	PPPoE(自動接続)
DNSサーバ (3)	-
本体側のIPアドレス (4)	-
相手先のIPアドレス (5)	-
接続時間 (6)	- 時間 - 分 - 秒

登録 (7)	取消 (8)	選択 (9)
回線設定 (10)		
WAND1	選択 (11)	削除 (12)
接続先名 (13)		
IPアドレス (14)		
サブネットマスク (15)		
デフォルトゲートウェイ (16)		
プライマリDNSサーバ (17)		
セカンダリDNSサーバ (18)		
接続設定		
ユーザID (19)		
パスワード (20)		
登録 (21)	取消 (22)	登録して再起動 (23)
回線種別		
<input checked="" type="radio"/> PPPoE <input type="radio"/> DHCP (24)		

- ⑩回線設定 <▼>をクリックして登録されている接続先、または「追加」を選んで接続先を追加できます。(最大8件まで登録可能)
 なお、「接続先・追加」を選択したあと、<選択>をクリックしてください。
- ⑪<選択>ボタン [⑩接続先選択]で選択した接続先の設定内容を表示させるボタンです。
 クリックすると、選択された接続先の設定を「回線設定」画面(⑬～⑱)および「接続設定」画面(⑲、⑳)に表示します。
- ⑫<削除>ボタン [⑩接続先選択]で選択した登録を削除するボタンです。
- ⑬接続先名 ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例: icom)
- ⑭IPアドレス ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ⑮サブネットマスク ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ⑯デフォルトゲートウェイ ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑰プライマリDNSサーバ プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

1 WAN関連設定～PPPoE

1. WAN側設定(つづき)

本体の時刻 : 2002年 01月 01日 10時 12分

接続状況	
未接続	<input type="button" value="切断"/> ①
回線種別	PPPoE(自動接続) ②
DNSサーバ	- ③
本体側のIPアドレス	- ④
相手先のIPアドレス	- ⑤
接続時間	= 時間 - 分 - 秒 ⑥

登録	取消	接続
<input type="button" value="登録"/> ⑦	<input type="button" value="取消"/> ⑧	<input type="button" value="接続"/> ⑨
回線種別 ⑩ WAND1 ▾ 選択 ⑪ 削除 ⑫		
接続先名	⑬	
IPアドレス	⑭	
サブネットマスク	⑮	固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
デフォルトゲートウェイ	⑯	
プライマリDNSサーバ	⑰	
セカンダリDNSサーバ	⑱	

接続設定	
ユーザID	⑲
パスワード	⑳

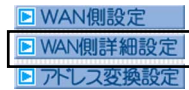
登録	取消	登録して再起動
<input type="button" value="登録"/> ㉑	<input type="button" value="取消"/> ㉒	<input type="button" value="登録して再起動"/> ㉓

回線種別

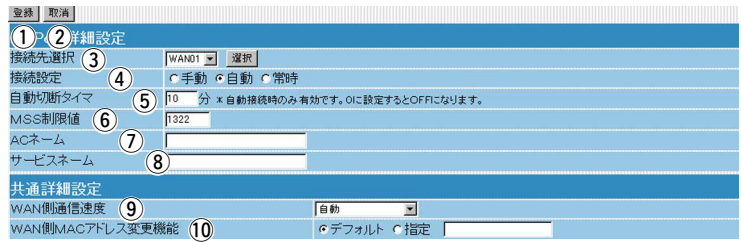
PPPoE DHCP ㉔

- ⑱セカンダリDNSサーバ …… プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
- ⑲ユーザID …… プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。
- ⑳パスワード …… プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。
- ㉑<登録>ボタン …… 「回線種別」画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ㉒<取消>ボタン …… 「回線種別」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ㉓<登録して再起動>ボタン …… 「回線種別」画面の内容を変更したとき、その内容を確定して有効にするために本製品を再起動します。
- ㉔回線種別 …… ご契約のプロバイダーや接続業者から指定された回線種別を選択します。
すべての設定を初期化したときや、出荷時の状態では、どちらの回線にも設定されていません。
- PPPoE
WAN側のIPアドレスを、「PPPoE」で取得します。
 - DHCP
WAN側のIPアドレスを、「DHCP」クライアントで取得します。
また、IPアドレスを固定で設定する場合もこちらを選択します。
※設定を有効にするためには、選択後<登録して再起動>をクリックして、本製品を再起動させる必要があります。

2.WAN側詳細設定



回線接続中は設定できませんので、ご注意ください。



- ①<登録>ボタン …………… この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン …………… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先選択 …………… 設定する接続先を選択します。
「WAN側設定」の「回線設定」画面で登録した接続先ごとの詳細が設定できます。
- ④接続設定 …………… 回線(PPPoE)への接続方法を選択します。
●**手動**：「回線設定」画面の<接続>ボタンおよび「接続状況」画面の<切断>ボタンで、回線を強制的に接続/切断します。
●**自動**：パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的に接続します。
●**常時**：常時接続します。
本製品で指定した接続先(WAN側)と常に接続状態を保ちます。
- ⑤自動切断タイマ …………… 上記[④接続設定]を「自動」に設定する場合、WAN側への送出パケットがなくなってから回線を切断するまでの時間を入力します。
(出荷時の設定：10) 0分(自動切断しない)～65535分まで入力できます。
- ⑥MSS制限値 …………… プロバイダーから指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。(出荷時の設定：1322) 536～1452まで入力できます。

MSS値とは、受信できる最大セグメント数のことです。Ethernetの最大データサイズは1500バイトと定められています。これに対して、[PPPoE]や[フレッツADSL]の最大データサイズはこれよりも小さい値となっていますが、現行のインターネットルータには、オーバーサイズの packets を破棄するものがあります。よって、パケットの保護を優先するために小さめに設定しておく必要があります。

※MSSはMTUより40バイト小さい値になります。

【重要】

弊社では、MSS制限値を変更したことによって生じる結果については一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

1 WAN関連設定～PPPoE

2.WAN側詳細設定(つづき)

⑦ACネーム …………… プロバイダーから指定されている場合に限り、アクセスコンセントレーター名を入力します。

⑧サービスネーム …………… プロバイダーから指定されている場合に限り、サービスネームを入力します。

⑨WAN側通信速度 …………… 本製品と接続するADSL/CATVケーブルモデムやHUBとのあいだで通信する速度を選択します。

●自動

本製品の[WAN側]ポートに接続している機器に合わせて通信速度が自動で選択されます。

●100(Half Duplex)

[100Mbps/Half Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[100Mbps/Half Duplex]に対応している必要があります。

●100(Full Duplex)

[100Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[100Mbps/Full Duplex]に対応している必要があります。

●10(Half Duplex)

[10Mbps/Half Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[10Mbps/Half Duplex]に対応している必要があります。

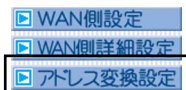
●10(Full Duplex)

[10Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[10Mbps/Full Duplex]に対応している必要があります。

⑩WAN側MACアドレス

変更機能 …………… 本製品のWAN側のMACアドレスを変更するときは、「指定」のラジオボタンをクリックして、任意のMACアドレスを入力します。入力後は<登録>をクリックします。

3.アドレス変換設定



登録		取消	
① ② 換設定			
アドレス変換 ③		○しない ○する	
DMZホスト IPアドレス ④		<input type="text"/>	
静的マスカレードテーブル設定 ⑤			
登録の追加			
ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート 終了ポート
<input type="text"/>	TCP	指定	<input type="text"/> <input type="text"/>
現在の登録			
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
静的NATテーブル設定 ⑥			
登録の追加			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="text"/>
現在の登録			
グローバルIP	-	ローカルIP	

- ①<登録>ボタン …………… この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン …………… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 …………… NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④DMZホストIPアドレス…………… DMZホスト機能(非武装セグメント)を使用するホストのIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
転送することにより、AP-120BのLAN側に存在するパソコンでWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどが行えますが、セキュリティ上問題がありますのでご使用には十分注意してください。

1 WAN関連設定～PPPoE

3.アドレス変換設定(つづき)

The screenshot shows a web-based configuration interface for WAN settings. It is divided into several sections:

- ① ② 換設定**: A section for address conversion with fields for 'アドレス変換' (Address Conversion) and 'DMZホストIPアドレス' (DMZ Host IP Address). There are radio buttons for 'しない' (No) and 'する' (Yes).
- ⑤ 静的マスカレードテーブル設定**: A section for static NAT table settings. It includes a table for adding records with columns: 'ローカルIP' (Local IP), 'プロトコル' (Protocol), 'ポート' (Port), '開始ポート' (Start Port), and '終了ポート' (End Port). Below this is a table for '現在の登録' (Current Registrations).
- ⑥ 静的NATテーブル設定**: A section for static NAT table settings. It includes a table for adding records with columns: 'グローバルIP' (Global IP), 'ローカルIP' (Local IP), and a '追加' (Add) button. Below this is a table for '現在の登録' (Current Registrations).

⑤静的マスカレードテーブル

設定

マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ローカルIP** : プライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.1)
- プロトコル** : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- 開始ポート** : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
- 終了ポート** : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。

※入力後は<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

※IPフィルター設定においても、同様にポートを透過させる必要があります。

⑥静的NATテーブル設定

プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。

最大32個のNATテーブルを設定できます。

- グローバルIP** : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
(入力例: 172.16.0.49)
- ローカルIP** : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.10)

※入力後は<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

1.WAN側設定	12
2.WAN側詳細設定	15
3.アドレス変換設定	16

2 WAN関連設定～DHCP

1.WAN側設定

- ▶ WAN側設定
- ▶ WAN側詳細設定
- ▶ アドレス変換設定

本体の時刻：2002年01月01日 10時13分

接続状況	
未接続	切断 ①
回線種別 ②	DHCP
DNSサーバ ③	-
本体側のIPアドレス ④	-
相手先のIPアドレス ⑤	-
接続時間 ⑥	- 時間 - 分 - 秒

登録 取消 接続

⑦ ⑧ ⑨

回線設定 DHCP

接続先名 ⑩	
IPアドレス ⑪	
サブネットマスク ⑫	
デフォルトゲートウェイ ⑬	
プライマリDNSサーバ ⑭	
セカンダリDNSサーバ ⑮	

登録 取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

⑯ ⑰ ⑱

回線種別

PPPoE DHCP ⑲

- ①<切断>ボタン …………… プロバイダーとの回線を強制的に切断します。
- ②回線種別 …………… ご契約になっているプロバイダーとの接続方式(「DHCP」)を表示します。
- ③DNSサーバ …………… ご契約になっているプロバイダーのDNSサーバアドレスを表示します。
- ④本体側のIPアドレス …………… 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑤相手先のIPアドレス …………… ご契約になっているプロバイダーのIPアドレスを表示します。
- ⑥接続時間 …………… ご契約になっているプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックします。
- ⑦<登録>ボタン …………… 「回線設定 DHCP」画面(⑩～⑮)の内容を確定するボタンです。
- ⑧<取消>ボタン …………… 「回線設定 DHCP」画面(⑩～⑮)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨<接続>ボタン …………… 「回線設定 DHCP」画面(⑩～⑮)に表示している相手先へ手動で接続するボタンです。
そのときの接続状況を「接続状況」画面に表示します。
- ⑩接続先名 …………… ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例：icom)
- ⑪IPアドレス …………… ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたとき(固定IPアドレスで接続する場合)に限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

1. WAN側設定(つづき)

本体の時刻 : 2002年.01月.01日 10時 13分

接続状況	
未接続	<input type="button" value="切断"/> ①
回線種別	DHCP ②
DNSサーバ	- ③
本体側のIPアドレス	- ④
相手先のIPアドレス	- ⑤
接続時間	- 時間 - 分 - 秒 ⑥

回線設定 DHCP	
接続先名	⑩
IPアドレス	⑪
サブネットマスク	⑫
デフォルトゲートウェイ	⑬
プライマリDNSサーバ	⑭
セカンダリDNSサーバ	⑮

⑬ ⑭ ⑮ 固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。

⑬ ⑭ ⑮ 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

⑯ ⑰ ⑱

回線種別

PPPoE DHCP ⑱

- ⑫サブネットマスク …………… ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたとき(固定IPアドレスで接続する場合)に限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ⑬デフォルトゲートウェイ …… ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたとき(固定IPアドレスで接続する場合)に限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑭プライマリDNSサーバ …………… プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
- ⑮セカンダリDNSサーバ …………… プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
- ⑯<登録>ボタン …………… 「回線種別」画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ⑰<取消>ボタン …………… 「回線種別」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑱<登録して再起動>ボタン …… 「回線種別」画面の内容を変更したとき、その内容を確定して有効にするために本製品を再起動します。

2 WAN関連設定～DHCP

1. WAN側設定(つづき)

本体の時刻 : 2002年 01月 01日 10時 13分

接続状況	
未接続	切断 (1)
回線種別 (2)	DHCP
DNSサーバ (3)	-
本体側のIPアドレス (4)	-
相手先のIPアドレス (5)	-
接続時間 (6)	= 時間 - 分 - 秒

登録 (7)	取消 (8)	接続 (9)
回線設定 DHCP		
接続先名 (10)		
IPアドレス (11)		
サブネットマスク (12)		固定のIPアドレスを使用する ときのみ入力します。
デフォルトゲートウェイ (13)		
プライマリDNSサーバ (14)		
セカンダリDNSサーバ (15)		

(16) 登録 (17) 取消 (18) 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

回線種別 (19)

PPPoE DHCP

①回線種別 ご契約のプロバイダーや接続業者から指定された回線種別を選択します。

すべての設定を初期化したときや、出荷時の状態では、どちらの回線にも設定されていません。

●PPPoE

WAN側のIPアドレスを、「PPPoE」で取得します。

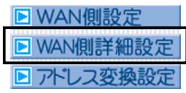
●DHCP

WAN側のIPアドレスを、「DHCP」クライアントで取得します。

また、IPアドレスを固定で設定する場合もこちらを選択します。

※設定を有効にするためには、選択後<登録して再起動>をクリックして、本製品を再起動させる必要があります。

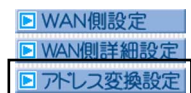
2.WAN側詳細設定



- ①<登録>ボタン …………… この画面の内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン …………… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③WAN側通信速度 …………… 本製品と接続するADSL/CATVケーブルモデムやHUBとのあいだで通信する速度を選択します。
- 自動
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器に合わせて通信速度が自動で選択されます。
 - 100(Half Duplex)
[100Mbps/Half Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[100Mbps/Half Duplex]に対応している必要があります。
 - 100(Full Duplex)
[100Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[100Mbps/Full Duplex]に対応している必要があります。
 - 10(Half Duplex)
[10Mbps/Half Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[10Mbps/Half Duplex]に対応している必要があります。
 - 10(Full Duplex)
[10Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN側]ポートに接続している機器が、[10Mbps/Full Duplex]に対応している必要があります。
- ④WAN側MACアドレス
変更機能 …………… 本製品のWAN側のMACアドレスを変更するときは、「指定」のラジオボタンをクリックして、任意のMACアドレスを入力します。
入力後は<登録>をクリックします。

2 WAN関連設定～DHCP

3.アドレス変換設定



ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート	終了ポート
	TCP	指定		

グローバルIP	ローカルIP	ポート

- ①<登録>ボタン この画面の内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④DMZホストIPアドレス DMZホスト機能(非武装セグメント)を使用するホストのIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。転送することにより、AP-120BのLAN側に存在するパソコンでWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどが行えますが、セキュリティ上問題がありますのでご利用には十分注意してください。

⑤静的マスカレードテーブル設定

マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.1)
- プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
- 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。

※入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

3.アドレス変換設定(つづき)

登録		取消	
① ② 換設定			
アドレス変換 ③		○ しない ○ する	
DMZホスト IPアドレス ④		<input type="text"/>	
静的マスカレードテーブル設定 ⑤			
登録の追加			
ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート 終了ポート
<input type="text"/>	TCP	指定	<input type="text"/> <input type="text"/>
現在の登録			
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
<input type="text"/>			
静的NATテーブル設定 ⑥			
登録の追加			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	

- ⑥静的NATテーブル設定 …………… プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。
 最大32個のNATテーブルを設定できます。
- グローバルIP**：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。(入力例：172.16.0.49)
 - ローカルIP**：任意のプライベートIPアドレスを入力します。(入力例：192.168.0.10)
- ※入力後は<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

1.LAN側IP設定	20
2.簡易DNSサーバ設定	24
3.IPフィルタ設定	26
4.RIP設定	30
5.ルーティング設定	32

3 LAN関連設定

1.LAN側IP設定

- ▶ LAN側IP設定
- ▶ 簡易DNSサーバ設定
- ▶ IPフィルタ設定
- ▶ RIP設定
- ▶ ルーティング設定

The screenshot shows the configuration interface for LAN side IP settings. It is divided into several sections: '本体名/IPアドレス設定' (Device Name/IP Address Setting), 'DHCPサーバ設定' (DHCP Server Setting), and '静的DHCPサーバ設定' (Static DHCP Server Setting). The 'DHCPサーバ設定' section includes options for enabling DHCP, setting the starting IP, number of leases, and lease duration. The '静的DHCPサーバ設定' section includes a table for adding static IP addresses with columns for MAC address and IP address.

- ①<登録>ボタン この画面で設定した内容を確定するボタンです。
ルータタイプモデム接続
変更された内容で運用するには、<登録して再起動>ボタンで再起動が必要です。
- ②<取消>ボタン この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
ルータタイプモデム接続
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動>ボタン この画面中で変更した内容を有効にするため、本製品を再起動します。
ルータタイプモデム接続
- ④本体名称 ネットワーク上で、本製品を識別するための名前です。
ルータタイプモデム接続
設定した名前は、ネットワーク上の有線または無線で接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするために必要なドメイン名の一部として使えます。 (出荷時の設定：AP-120B)
入力形式：[http://web.本体名称/]
この場合、「2.簡易DNSサーバ設定」の「DNSサーバ設定」画面で[④DNSサーバの代理応答]を「する」(出荷時の設定)に設定しておく必要があります。
また、ほかのネットワーク機器と重複しないように注意して、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、-)、31文字以内で設定します。
プロバイダーから指定されている場合は、この[本体名称]に設定してください。
このとき、お使いのパソコンにその名前をすでに使用している場合は、パソコンに設定している名前を変更してください。
※全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能では利用できません。

1. LAN側IP設定(つづき)

⑤IPアドレス ……………

ルータタイプモデム接続

本製品のIPアドレスを変更します。

(出荷時の設定：192.168.0.1)

本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。

なお、IPアドレスが「192.168.0.1」のルータタイプモデムに接続する場合は「192.168.0.250」、アドレスが「192.168.1.1」のルータタイプモデムであれば「192.168.1.250」を設定してください。

※「DHCPサーバ設定」画面で[⑦DHCPサーバ機能を使用]を「する」に設定している場合は、DHCPサーバ機能による自動割り当てIPアドレスの設定についてもネットワーク部を同じに設定してください。

⑥サブネットマスク ……………

ルータタイプモデム接続

本製品のサブネットマスクを設定します。

(出荷時の設定：255.255.255.0)

LAN側のIPアドレスに対するサブネットマスクです。

本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

⑦DHCPサーバ機能を使用 ……

ルータタイプモデム接続

本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。

本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、「IPアドレスを自動的に取得する」と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。

この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。

※簡単接続設定ウィザードでルータタイプモデムを選択した場合、初期値は「しない」に設定されます。

⑧割り当て開始IPアドレス ……

本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。

3 LAN関連設定

1. LAN側IP設定(つづき)

LAN側IPアドレス設定		
① ② ③	④	
⑤	⑥	
DHCPサーバ設定		
⑦	⑧	
⑨	⑩	
⑪	⑫	
⑬	⑭	
⑮	⑯	
⑰	⑱	
静的DHCPサーバ設定 ⑲		
登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	追加
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	

- ⑨割り当て個数 …………… [⑧割り当て開始IPアドレス]に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレス数は、0～128(無線LANで接続するパソコンを含む)までです。
(出荷時の設定：30)
出荷時の[割り当て開始IPアドレス]と[サブネットマスク]の設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。
- ⑩サブネットマスク …………… [⑧割り当て開始IPアドレス]に対するサブネットマスクです。
- ⑪リース期間 …………… DHCPサーバが、定期的に自動でローカルIPアドレスをクライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。
(出荷時の設定：3)
- ⑫ドメイン名 …………… ドメイン名を使用しているときや、**プロバイダーからドメイン名を指定されたときなど**、必要があればDHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。
- ⑬デフォルトゲートウェイ …… ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定された場合に限り、LAN側に通知するゲートウェイを入力します。
- ⑭プライマリDNSサーバ ……… [⑦DHCPサーバ機能を使用]を「する」に設定して、使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑮セカンダリDNSサーバ ……… [⑭プライマリDNSサーバ]と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
※DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効になります。

1.LAN側IP設定(つづき)

The screenshot shows a web-based configuration page for LAN settings. It is divided into several sections:

- 基本設定 / IPアドレス設定:**
 - ① 登録 / 取消 / 登録して再起動 (with a note: 全IPアドレスをリセットする場合は再起動後に有効になります。)
 - ② 本体名称: AP-120B
 - ③ IPアドレス: 172.20.11.109
 - ④ サブネットマスク: 255.255.0.0
- DHCPサーバ設定:**
 - ⑤ DHCPサーバ機能を使用: しない する
 - ⑥ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10
 - ⑦ 割り当て回数: 50 個
 - ⑧ サブネットマスク: 255.255.255.0
 - ⑨ リース期間: 8 日
 - ⑩ ドメイン名:
 - ⑪ デフォルトゲートウェイ: 172.20.11.109
 - ⑫ プライマリDNSサーバ:
 - ⑬ セカンダリDNSサーバ:
 - ⑭ プライマリWINSサーバ:
 - ⑮ セカンダリWINSサーバ:
- 静的DHCPサーバ設定:**
 - ⑯ 登録の追加:

MACアドレス	IPアドレス	追加
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
 - 現在の登録:

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- ⑯ **プライマリWINSサーバ** …… Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
- ⑰ **セカンダリWINSサーバ** …… 「⑯プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑱ **静的DHCPサーバ設定** …… DHCPサーバ機能を使用して自動的に割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
 ※入力後は、<追加>をクリックしてください。
 ※最大16個の組み合わせまで登録できます。
 登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当て可能な範囲外のアドレスを指定してください。

3 LAN関連設定

2.簡易DNSサーバ設定



登録の追加	
IPアドレス	ホスト名
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="追加"/>	

現在の登録	
IPアドレス	ホスト名

登録の追加		
相手先URL	発信元IP	動作
<input type="text"/>	<input type="text"/>	破壊する
<input type="button" value="追加"/>		

現在の登録		
相手先URL	発信元IP	動作

- ①<登録>ボタン …………… この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン …………… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DNSサーバの代理応答 …………… 本製品を代理DNSサーバとして使用するかしないかの設定です。
代理DNSサーバ機能とは、パソコンからのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバへ転送する機能です。
有線または無線ネットワーク上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定している場合、代理DNSサーバ機能を利用すると、本製品が接続する先のDNSサーバのアドレスが変更になったときでも、パソコンの設定を変更する必要がありませんので便利です。
- ④簡易DNSサーバ設定 …………… 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
簡易DNSサーバ機能を使用すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。
ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておくと、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。
※入力後は、<追加>ボタンをクリックしてください。
※最大16個の組み合わせまで登録できます。
※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

2.簡易DNSサーバ設定(つづき)

The screenshot shows a web-based configuration interface for a DNS server. It is divided into several sections:

- DNSサーバ設定**: Includes a dropdown for "DNSサーバの代理応答" (DNS server proxy response) with options "しない" (no) and "する" (yes).
- 簡易DNSサーバ設定**: A sub-section for simple DNS server settings.
- 登録の追加**: A table for adding new registrations with columns for "IPアドレス" (IP address) and "ホスト名" (hostname), and an "追加" (add) button.
- 現在の登録**: A table for current registrations with columns for "IPアドレス" and "ホスト名".
- URLフィルタ設定**: A section for URL filtering, highlighted with a circled '5'. It includes:
 - 登録の追加**: A table with columns for "相手先URL" (destination URL), "発信元IP" (source IP), "動作" (action), and "追加" (add). The "動作" column has a "破棄する" (discard) button.
 - 現在の登録**: A table with columns for "相手先URL", "発信元IP", and "動作".

⑤URLフィルタ設定 ……………

この画面に登録されたURL情報や発信元のIPアドレスをもとに、特定の発信先へのデータを遮断します。

[相手先URL]の欄には、ワイルドカードとして、「?」「*」が使用できます。また「?」は任意の1文字、「*」は任意の文字列として認識されます。

たとえば、「*.icom.co.jp」を指定したときは、「www.icom.co.jp」や「mail.icom.co.jp」へのデータが破棄されます。

※この機能を利用するときは、本製品の代理DNSサーバ機能を併用してください。

※入力後は、<追加>ボタンをクリックしてください。

※最大32個の組み合わせまで登録できます。

3 LAN関連設定

3.IPフィルタ設定

特定条件を満たす内部または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルターの設定です。



The screenshot shows the 'IPフィルタ設定' (IP Filter Settings) page. It includes a '追加' (Add) button (1) and a '編集' (Edit) button. The form fields are numbered 2 through 9: ② 番号 (Number), ③ フィルタ方向 (Filter Direction), ④ フィルタ方法 (Filter Method), ⑤ プロトコル (Protocol), ⑥ 発信元ポート番号 (Source Port Number), ⑦ 宛先ポート番号 (Destination Port Number), ⑧ 発信元IPアドレス (Source IP Address), and ⑨ 宛先IPアドレス (Destination IP Address). Below the form is a table (10) showing the list of filters.

削除	番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号		宛先ポート番号		発信元IPアドレス		宛先IPアドレス	
					始点	終点	始点	終点	始点	終点	始点	終点
削除	61	IN	透過	TCP	20	-	*	-	*	-	*	-
削除	62	IN	遮断	TCP_EST	*	-	*	-	*	-	*	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	*	-	137	-	139	*	-	*
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	137	-	139	-	139	*	-	*

- ①<追加>ボタン …………… この画面で作成、または編集した内容をフィルターとして追加するボタンです。
- ②番号 …………… 最大64件のフィルターを登録できます。
フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、登録されたフィルターと比較します。
この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。
フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
<編集>ボタン
設定済みのフィルターを編集するボタンです。
登録された中から編集するフィルター番号を入力して、<編集>ボタンをクリックします。
- ③フィルタ方向 …………… パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。
- OUT : 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
※フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
 - IN : WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
※フィルタリング処理は、アドレス変換の後に行います。
 - BOTH : 本製品からWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

3.IPフィルタ設定(つづき)

IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ②

フィルタ方向 ③

フィルタ方法 ④

プロトコル ⑤

発信元ポート番号 ⑥

宛先ポート番号 ⑦

発信元IPアドレス ⑧

宛先IPアドレス ⑨

削除	番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号		宛先ポート番号		発信元IPアドレス		宛先IPアドレス		
					始点	終点	始点	終点	始点	終点	始点	終点	
	61	IN	透過	TCP	20	-	*	-	*	-	*	-	
	62	IN	遮断	TCP_EST	*	-	*	-	*	-	*	-	
	63	OUT	透過(接続中)	TCP	*	-	137	-	139	*	-	*	-
	64	OUT	透過(接続中)	UDP	137	-	139	-	139	*	-	*	-

④フィルタ方法 …………… フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。
以下の中から選択してください。

- 遮断 : 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 : 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) : 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。
このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

⑤プロトコル …………… フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL : すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP : TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP_FIN : TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP_EST : TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP : UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP : ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、10進数で0~255までの半角数字を入力してください。

3 LAN関連設定

3.IPフィルタ設定(つづき)

IPフィルタ設定									
⑩									
	番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス	
削除	61	IN	透過	TCP	20	-	*	-	*
削除	62	IN	遮断	TCP_EST	*	-	*	-	*
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	*	-	137	-	139
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	137	-	139	-	139

- ⑥発信元ポート番号 …………… フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を入力する項目です。
番号を始点から終点まで連続で入力します。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。
- ⑦宛先ポート番号 …………… フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を入力する項目です。
番号を始点から終点まで連続で入力します。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。
- ⑧発信元IPアドレス …………… 発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
発信元ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。
- ⑨宛先IPアドレス …………… 宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
宛先ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

3.IPフィルタ設定(つづき)

IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ② 編集

フィルタ方向 ③

フィルタ方法 ④

プロトコル ⑤ その他選択時

発信元ポート番号 ⑥ ~

宛先ポート番号 ⑦ ~

発信元IPアドレス ⑧ ~

宛先IPアドレス ⑨ ~

⑩

番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス					
				始点	終点	始点	終点					
削除	61	IN	透過	TCP	20	-	*	-	*	-	*	-
削除	62	IN	遮断	TCP_EST	*	-	*	-	*	-	*	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	*	-	137	-	139	*	-	*
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	137	-	139	137	-	139	*	-

⑩IPフィルタ登録状況 …………… 現在登録されているIPフィルタを表示および削除を行います。

3

工場出荷時に設定されているフィルタについて

出荷時の設定として、あらかじめフィルタが登録されています。設定されているフィルタの目的は、以下のとおりです。

- 61番 : FTPをデフォルトで通過させる
- 62番 : WAN側からの不正パケット防止
- 63、64番 : Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止

3 LAN関連設定

4.RIP設定



RIP機能についての設定を行います。

- ①<登録>ボタン この画面で設定した内容を確定するボタンです。
変更された内容で運用するには、<登録して再起動>ボタンで再起動が必要です。
- ②<取消>ボタン この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動>ボタン この画面中で変更した内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④RIP設定 隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するときを使用します。(出荷時の設定：使用しない)
 - 使用しない 経路を静的に作成するときの設定です。
 - RIP RIPの「Version1」を使用します。
 - RIP2(マルチキャスト) RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。
 - RIP2(ブロードキャスト) RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。
- ⑤LAN側RIP動作 LAN側の隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を動的に交換する動作を「受信のみ」、または「送信も受信も行う」から選択します。
- ⑥WAN側RIP動作 WAN側の隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を動的に交換する動作を「受信のみ」、または「送信も受信も行う」から選択します。

4.RIP設定(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

① ② ③

RIP設定

RIP設定 ④ [使用しない] ▼

LAN側RIP動作 ⑤ [受信のみ] ▼

WAN側RIP動作 ⑥ [受信のみ] ▼

認証キー ⑦ []

RIPフィルタ設定 ⑧

登録の追加

フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	
無視する	[]	[]	追加

現在の登録

フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	

- ⑦認証キー [④RIP設定]にて、「RIP2(マルチキャスト)」または「RIP2(ブロードキャスト)」を設定している場合、そのRIP動作を認証するためのキーを入力します。
- ※上記[④RIP設定]にて、「RIP」または、「使用しない」を選択している場合は、空白にします。
- キーの入力には、大文字/小文字の区別に注意して、半角31文字以内で入力します。
- 認証キーの入力は、他のルータやアクセスポイントに設定されている認証キーと同じ設定にします。
- ※認証キーを設定すると、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」および、認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。
- ⑧RIPフィルタ設定 同一サブネットで使う複数のアクセスポイントやルータにおいて、特定のアクセスポイントやルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するアクセスポイントやルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
- 最大20件の登録が可能です。
- ※入力後は、<追加>をクリックしてください。

3 LAN関連設定

5.ルーティング設定

- ▶ LAN側IP設定
- ▶ 簡易DNSサーバ設定
- ▶ IPフィルタ設定
- ▶ RIP設定
- ▶ **ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト					
インターフェイス	IPアドレス	サブネットマスク			
local	172.20.11.109	255.255.0.0			

IP経路情報											
宛先	①	サブネットマスク	②	ゲートウェイ	③	経路	作成	④	⑤	メトリック	⑥
172.20.0.0		255.255.0.0		172.20.11.109		local	static				0
172.20.0.0		255.255.255.255		255.255.255.255		local	misc				0
172.20.11.109		255.255.255.255		172.20.11.109		local	static				0
172.20.255.255		255.255.255.255		255.255.255.255		local	misc				0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
local	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録					
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
					⑫

IP経路情報 ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータ、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。この画面には、「スタティックルーティング設定」画面で追加した経路も表示されます。

①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。

②サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。

③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。

④経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」に表示されます。

⑤作成 どのように経路情報が作られたかを表示します。
●static : スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
●rip : ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
●misc : ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。

⑥メトリック 経路のコストを表示します。

5.ルーティング設定(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト								
インターフェイス	IPアドレス		サブネットマスク					
local	172.20.11.109		255.255.0.0					
IP経路情報								
宛先	①	サブネットマスク	②	ゲートウェイ	③	経路	作成	メトリック
172.20.0.0		255.255.0.0		172.20.11.109		loc	stat	0
172.20.0.0		255.255.255.255		255.255.255.255		local	misc	0
172.20.11.109		255.255.255.255		172.20.11.109		local	static	0
172.20.255.255		255.255.255.255		255.255.255.255		local	misc	0
スタティックルーティング設定								
登録の追加								
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック				
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		追加		
現在の登録								
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック		⑫		

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。

登録できるのは、最大32件までです。

※入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

また、その内容は、上記の「IP経路情報」にも表示されます。

- ⑦経路 ●local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 ●wan : 登録する経路情報がWAN側の場合です。
- ⑧宛先 対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
- ⑨サブネットマスク 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ⑩ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
- ⑪メトリック 宛先までのコストを表す数値を入力します。
 数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。
 0~15まで入力できます。
- ⑫<追加>ボタン 設定した内容で「IP経路情報」画面に登録します。

1.無線LAN設定36

4 無線LAN設定

1.無線LAN設定

ルータタイプモデム接続



The screenshot shows the wireless LAN settings interface. It is divided into several sections: 無線LAN設定 (Wireless LAN Settings), 無線詳細設定 (Wireless Detailed Settings), セキュリティレベル カスタム設定 (Security Level Custom Settings), and MACアドレスセキュリティ設定 (MAC Address Security Settings). Callouts 1-20 point to specific UI elements: 1 (録) and 2 (消) are buttons at the top; 3 (ESS ID), 4 (ESS IDの確認入力), and 5 (ANYを拒否) are in the first section; 6 (チャンネル), 7 (ダイバーシティ/テナを使用), 8 (Rts/Ctsスレッシュホールド), 9 (セキュリティレベル), and 10 (キージェネレータ) are in the second section; 11 (暗号化方式), 12 (受信/パケットの復号), 13 (送信/パケットの暗号化), 14 (WEPフラグ), and 15 (暗号化ビット数) are in the third section; 16 (WEPキー) is a list; 17 (全リスト表示) is a link; 18 (MACアドレスセキュリティを使用) is a checkbox; 19 (登録の追加) is a button; and 20 (現在の登録) is a table header.

- ①<登録>ボタン この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③ESS ID アクセスポイントやワイヤレスルータが無線伝送エリア内に数台存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを異なる[ESS ID]で識別させることで、異なる無線ネットワークグループからの混信を防止します。
この[ESS ID]が異なると無線通信できません。
セキュリティというよりは、むしろ無線ネットワークのグループ分けを設定するために使用します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG)
また、入力した文字はすべて「*」で表示されます。
(表示例：**)
- ④ESS IDの確認入力 確認のため、ESS IDを再入力します。
大文字/小文字の区別に注意してください。 (表示例：**)
- ⑤ANYを拒否 ESS IDを「ANY」、または「any」と設定している無線端末を、ESS IDが設定された無線ネットワークグループの一員としないかを設定します。
同じ無線ネットワークグループの一員とするときは、「しない」を選択します。
※本製品にSL-50を装着している場合、この項目は表示しません。

1.無線LAN設定(つづき)

⑥チャンネル 本製品の無線アクセスポイント接続に使用する無線通信チャンネルを設定します。

無線端末側は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。

5GHz無線LANカード装着時(SL-50など) 出荷時の設定：34

2.4GHz無線LANカード装着時(SL-12など) 出荷時の設定：11

※2.4GHz無線LANカードをご使用になって、無線伝送エリア内に別の無線アクセスポイントなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4チャンネル以上飛ばして設定してください。それ以下のときは、各チャンネルの帯域の一部が隣接するチャンネルの帯域の一部と重複するため、混信する可能性があります。例えば、お互いの無線アクセスポイントが、1-6-11チャンネルに設定されていると、混信しません。



※なお、5GHz無線LANカードをご使用の場合は、相互の電波干渉が発生することはありません。

4 無線LAN設定

ルータタイプモデム接続

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows a web-based configuration interface for wireless LAN settings. It is divided into several sections:

- 無線LAN設定 (Wireless LAN Settings):** Includes fields for ESS ID (1), ESS ID confirmation (2), and a checkbox for 'ANYを拒否' (3).
- 無線詳細設定 (Wireless Detailed Settings):** Includes channel selection (4), a checkbox for 'ダイバシティアンテナを使用' (5), RTS/CTS threshold (6), security level (7), and key generator (8).
- セキュリティレベル カスタム設定 (Security Level Custom Settings):** Includes encryption method (9), key length (10), and WEP key selection (11-15). A note on the right states: 'この項目はセキュリティレベルを「カスタム」に設定した場合のみ変更が可能です。' (This item can only be changed when the security level is set to 'Custom').
- MACアドレスセキュリティ設定 (MAC Address Security Settings):** Includes a checkbox for 'MACアドレスセキュリティを使用' (16).
- 登録の追加 (Add Registration):** Includes a field for MAC address (17) and an '追加' (Add) button.
- 現在の登録 (Current Registrations):** A table with columns for '登録済みの端末' (Registered devices), '受信中の端末' (Receiving devices), and '通信状況' (Communication status).

⑦ダイバシティアンテナを使用

弊社無線LANカード(別売品)用の分離式アンテナ(別売品：AH-110)をダイバシティアンテナ(2本)として使う場合は、「する」に設定します。

※この項目は、ダイバシティアンテナ対応の無線LANカード(SL-110、SL-120など)を本製品に装着したときだけ表示される項目です。

5GHz無線LANカード(SL-50など)装着時は表示されません。

※分離式アンテナの取り付けについては、ご使用になる無線LANカードに付属の取扱説明書をご参照ください。

1. 無線LAN設定(つづき)

登録	取消										
無線LAN設定											
ESS ID ③	**										
ESS IDの確認入力 ④	**										
ANYを拒否 ⑤	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する										
無線詳細設定											
チャンネル ⑥	11										
ダイバーシティアンテナを使用 ⑦	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する										
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑧	無し										
セキュリティレベル ⑨	カスタム										
キージェネレータ ⑩											
セキュリティレベル カスタム設定											
暗号化方式 ⑪	AESを使用										
受信パケットの復号 ⑫	する										
送信パケットの暗号化 ⑬	する										
WEPフラクタ ⑭	0										
暗号化ビット数 ⑮	<input type="radio"/> 128ビット <input type="radio"/> 256ビット										
WEPキー ⑯	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00-00-00
選択	文字列										
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00-00-00										
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00-00-00										
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00-00-00										
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00-00-00										
MACアドレスセキュリティ設定											
MACアドレスセキュリティを使用 ⑰	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する										
登録の追加 ⑱											
MACアドレス	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>										
現在の登録 ⑳											
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況									

⑧ Rts/Ctsスレッシュホールド

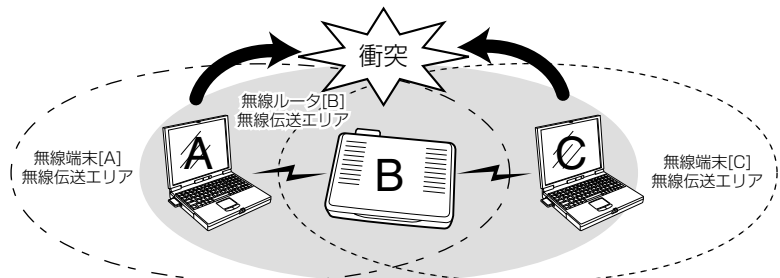
ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。

(出荷時の設定：無し)

Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。

隠れ端末とは、下図のように、それぞれが本製品[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



4 無線LAN設定

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows the wireless LAN configuration interface. It is divided into several sections: 無線LAN設定 (Wireless LAN Settings), 無線詳細設定 (Wireless Detailed Settings), セキュリティレベル カスタム設定 (Security Level Custom Settings), and MACアドレスセキュリティ設定 (MAC Address Security Settings). Each section contains various input fields and dropdown menus, with numbered callouts (1-20) pointing to specific elements. A table at the bottom shows the current registration status of devices.

現在の登録	登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

⑨セキュリティレベル …………… 無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、データを暗号化するレベルを設定します。(出荷時の設定：なし)
暗号化の方式には、WEP(Wired Equivalent Privacy ; RC4、AES)を使用しています。

ここで選択したレベル(低・中・高)にしたがって、「セキュリティレベル カスタム設定」の項目(⑪～⑮)を自動設定します。

※「セキュリティレベル カスタム設定」から設定値(⑪～⑮)を変更するときは、「カスタム」を選択してから、その番号の項目について任意に設定します。

※通信の対象となる相手間で同じセキュリティレベルを設定することをおすすめします。

なお、通信の対象となる相手間で、一方が「低」で、もう一方が「中」の場合についてだけ、その間の通信は可能です。

※なお、[⑪暗号化方式]で「AES」を選択するには、「カスタム」を選択してください。

⑩キージェネレータ …………… 暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。任意の半角英数字、31文字以内で入力します。

なお、入力した文字はすべて「*」で表示します。(表示例：***)
ここで入力した文字列に基づいて、「セキュリティレベル カスタム設定」の項目(⑮)を自動生成します。

※通信の対象となる相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。

異なる文字列の場合、暗号化されたデータを復号できません。

※「セキュリティレベル カスタム設定」(⑮)から設定値を設定するときは、ここには何も表示されません。

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows the wireless LAN configuration interface. It includes sections for general settings, detailed settings, security level customization, and MAC address security. Numbered callouts (1-20) highlight specific elements: 1 and 2 are the page title and tabs; 3 and 4 are ESS ID fields; 5 is the 'ANYを拒否' checkbox; 6 is the channel dropdown; 7 is the 'ダイバーシティアンテナを使用' checkbox; 8 is the 'Rts/Ctsスレッシュホールド' dropdown; 9 is the 'セキュリティレベル' dropdown; 10 is the 'キージェネレータ' field; 11 is the '暗号化方式' dropdown; 12 is the '受信パケットの復号' dropdown; 13 is the '送信パケットの暗号化' dropdown; 14 and 15 are the '暗号化ビット数' radio buttons; 16 is the 'WEPキー' list; 17 is the '全リスト表示' link; 18 is the 'MACアドレスセキュリティを使用' checkbox; 19 is the '登録の追加' button; and 20 is the '現在の登録' table.

■セキュリティレベルカスタム設定

[⑨セキュリティレベル]で「カスタム」を選択している場合に限り、設定できます。

- ①暗号化方式 無線伝送データの暗号化方式を選択します。
(出荷時の設定：しない)
- しない : 暗号化しません。
 - RC4を使用 : SL-11、SL-110など11Mbpsの無線LANカードを使うとき、可変長暗号キーを使って、堅牢に保護する暗号化アルゴリズムです。
 - AESを使用 : SL-50、SL-12、SL-120などの無線LANカードを使うとき、ラウンド変換を繰り返し実行する暗号化アルゴリズムです。
2002年6月の時点で、強度・速度面において最高水準のアルゴリズムです。
- ⑫受信パケットの復号 「無線詳細設定」の[⑨セキュリティレベル]で「カスタム」を選択するときの設定で、受信したパケットの復号化処理について設定します。
(出荷時の設定：しない)
- ⑬送信パケットの暗号化 「無線詳細設定」の[⑨セキュリティレベル]で「カスタム」を選択するときの設定で、送信したパケットの暗号化処理について設定します。
(出荷時の設定：しない)

4 無線LAN設定

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows a web-based configuration interface for wireless LAN settings. It is divided into several sections: '無線LAN設定' (Wireless LAN Settings), '無線詳細設定' (Wireless Detailed Settings), 'セキュリティレベル カスタム設定' (Security Level Custom Settings), and 'MACアドレスセキュリティ設定' (MAC Address Security Settings). Numbered callouts (1-20) point to specific fields and options. Callout 14 points to the 'WEPファクタ' (WEP Factor) dropdown menu, which is currently set to '0'. A tooltip on the right side of the WEP Factor menu explains that this setting is only applicable when 'Custom' is selected for the security level and lists the encryption levels for each factor value: 1 (1 packet), 2 (10 packets), 3 (50 packets), and 4 (100 packets).

⑭WEPファクタ …………… 「無線詳細設定」の[⑨セキュリティレベル]で「カスタム」を選択するときの設定で、「0」を選択すると、一番セキュリティが高くなります。(出荷時の設定：0)

各値の暗号化レベルは、つぎのようになります。

[0] = 1パケットごとに内部暗号キーを変更する

[1] = 10パケットごとに内部暗号キーを変更する

[2] = 50パケットごとに内部暗号キーを変更する

[3] = 100パケットごとに内部暗号キーを変更する

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows the following settings sections and callouts:

- 無線LAN設定**: ESS ID (3), ESS IDの確認入力 (4), ANYを拒否 (5).
- 無線詳細設定**: チャンネル (6), ダイバーシティアンテナを使用 (7), Rts/Ctsスレッシュホールド (8), セキュリティレベル (9), キージェネレータ (10).
- セキュリティレベル カスタム設定**: 暗号化方式 (11), 受信パケットの復号 (12), 送信パケットの暗号化 (13), 暗号化ビット数 (14, 15), WEPキー (16), and a list of alphanumeric strings (17).
- MACアドレスセキュリティ設定**: MACアドレスセキュリティを使用 (18), 登録の追加 (19), MACアドレス, and a table of registered MAC addresses (20).

⑮暗号化ビット数 …………… 「無線詳細設定」の[⑩キージェネレータ]に入力した文字列を暗号化するビット数を設定します。

[⑪暗号化方式]の設定によって選択肢の表示が変わります。
「RC4を使用」設定時：「64ビット(出荷時の設定)」「128ビット」
「AESを使用」設定時：「128ビット(出荷時の設定)」「256ビット」

「64ビット」を選択すると、[キージェネレータ]に入力した文字列より生成されたキーの下位40ビット(16進数：10文字)を「WEPキー」のテキストボックスに表示します。

また、10文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。

「128ビット」を選択すると、[キージェネレータ]のテキストボックスには、下位104ビットを表示します。

また、26文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。

「256ビット」を選択すると、[WEPキー]のテキストボックスには、下位232ビットを表示します。

また、58文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。

※[WEPキー]のテキストボックスに直接入力する場合、文字列は、「キージェネレータ」のテキストボックスに表示されません。

また、先頭の24ビットは常に表示されません。

4 無線LAN設定

1.無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows the wireless LAN configuration interface. It is divided into several sections: 無線LAN設定 (Wireless LAN Settings), 無線詳細設定 (Wireless Detailed Settings), セキュリティレベル カスタム設定 (Security Level Custom Settings), and MACアドレスセキュリティ設定 (MAC Address Security Settings). Callouts 1 through 20 point to specific fields and options: 1 and 2 are the '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons; 3 and 4 are the ESS ID fields; 5 is the 'ANYを拒否' (Deny ANY) checkbox; 6 is the 'チャンネル' (Channel) dropdown; 7 is the 'ダイバーシティアンテナを使用' (Use Diversity Antenna) checkbox; 8 is the 'Rts/Ctsスレッシュホールド' (Rts/Cts Threshold) dropdown; 9 is the 'セキュリティレベル' (Security Level) dropdown; 10 is the 'キージェネレータ' (Key Generator) text box; 11 is the '暗号化方式' (Encryption Method) dropdown; 12 is the '受信/パケットの復号' (Receive/Decrypt) dropdown; 13 is the '送信/パケットの暗号化' (Transmit/Encrypt) dropdown; 14 is the 'WEPフラクタ' (WEP Factor) dropdown; 15 is the '暗号化ビット数' (Encryption Bit Length) radio buttons; 16 is the 'WEPキー' (WEP Key) section; 17 is the '全リスト表示' (Show All List) link; 18 is the 'MACアドレスセキュリティを使用' (Use MAC Address Security) checkbox; 19 is the '登録の追加' (Add Registration) button; and 20 is the '現在の登録' (Current Registrations) table.

⑩WEPキー

暗号化に使うキー番号とその文字列を設定します。

(出荷時の設定：1)

キー番号(1～4)は、通信を行う相手間で、それぞれ任意に選択します。

選択したキー番号のテキストボックスには、暗号化および復号化に使用する文字列を半角英数字(16進数)で直接入力します。

入力する文字数は、[暗号化ビット数]の設定によって異なります。

※変更した内容は、〈登録して再起動〉で反映されます。

※例に示すように、相手間で使用するキー番号が異なる場合、相手側が暗号化に使用するキー番号と同じテキストボックスに、相手側と同じ文字列を入力します。

※例に示すように、互いの通信に使用するキー番号のテキストボックスの内容が異なると通信できません。

※[無線詳細設定]画面の[⑩キージェネレータ]のテキストボックスに何も入力しないときは、[⑩WEPキー]の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、[⑩キージェネレータ]のテキストボックスに文字列は、表示されません。)

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows the '無線LAN設定' (Wireless LAN Settings) page. It is divided into several sections: '無線LAN設定' (Wireless LAN Settings), '無線詳細設定' (Wireless Detailed Settings), 'セキュリティレベル カスタム設定' (Security Level Custom Settings), and 'MACアドレスセキュリティ設定' (MAC Address Security Settings). Numbered callouts (1-20) point to various fields and buttons: 1 and 2 are the '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons; 3 is the 'ESS ID' field; 4 is the 'ESS IDの確認入力' (Confirm ESS ID) field; 5 is the 'ANYを拒否' (Deny ANY) checkbox; 6 is the 'チャンネル' (Channel) dropdown; 7 is the 'ダイバーシティアンテナを使用' (Use Diversity Antenna) checkbox; 8 is the 'Rts/Ctsスレッシュホールド' (RTS/CTS Threshold) dropdown; 9 is the 'セキュリティレベル' (Security Level) dropdown; 10 is the 'キージェネレータ' (Key Generator) field; 11 is the '暗号化方式' (Encryption Method) dropdown; 12 is the '受信パケットの復号' (Decrypt Received Packets) dropdown; 13 is the '送信パケットの暗号化' (Encrypt Transmitted Packets) dropdown; 14 and 15 are the '暗号化ビット数' (Encryption Bit Count) radio buttons; 16 is the 'WEPキー' (WEP Key) field; 17 is the '全リスト表示' (Show All List) link; 18 is the 'MACアドレスセキュリティを使用' (Use MAC Address Security) checkbox; 19 is the '登録の追加' (Add Registration) button; and 20 is the '現在の登録' (Current Registrations) table.

⑰全リスト表示

選択可能な全WEPキーをリスト表示するためのリンクです。「全リスト表示」の上にマウスカースルを移動して、クリックしてください。

※[⑪暗号化方式]で「AESを使用」を選択している場合に限り、このリンクを表示します。

●AESキーリスト表示

The screenshot shows the 'AESキーリスト' (AES Key List) table. It has two columns: '選択' (Select) and '文字列' (String). The table contains 14 rows, each with a radio button in the '選択' column and a hexadecimal string in the '文字列' column. The strings are: 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00, 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00.

※設定後<登録>ボタンをクリックしてください。

また「無線LAN設定」画面を表示している状態で、ブラウザの<更新>ボタンをクリックして、表示を更新してください。

4 無線LAN設定

1. 無線LAN設定(つづき)

WEPキーの設定例

[例]：WEPキーがRC4、64ビット暗号化に設定されているとき]

- キー番号2の内容が同じなので通信できます。

WEPキ- 双方向通信可能 WEPキ-

C 1 -	76 C8 C0 F5 72
<input checked="" type="radio"/> C 2 -	50 AC 7E 6D E4
C 3 -	28 29 B4 F7 C4
C 4 -	7E C9 76 90 12



C 1 -	7E C9 76 90 12
<input checked="" type="radio"/> C 2 -	50 AC 7E 6D E4
C 3 -	28 29 B4 F7 C4
C 4 -	76 C8 C0 F5 72

- キー番号2と3の内容が同じなので通信できます。

WEPキ- 双方向通信可能 WEPキ-

C 1 -	76 C8 C0 F5 72
<input checked="" type="radio"/> C 2 -	50 AC 7E 6D E4
C 3 -	28 29 B4 F7 C4
C 4 -	7E C9 76 90 12



C 1 -	7E C9 76 90 12
<input checked="" type="radio"/> C 2 -	50 AC 7E 6D E4
<input checked="" type="radio"/> C 3 -	28 29 B4 F7 C4
C 4 -	76 C8 C0 F5 72

- キー番号1と4の内容が違うので通信できません。

WEPキ- 通信不可能 WEPキ-

<input checked="" type="radio"/> C 1 -	76 C8 C0 F5 72
C 2 -	50 AC 7E 6D E4
C 3 -	28 29 B4 F7 C4
C 4 -	7E C9 76 90 12



C 1 -	7E C9 76 90 12
C 2 -	50 AC 7E 6D E4
C 3 -	28 29 B4 F7 C4
<input checked="" type="radio"/> C 4 -	76 C8 C0 F5 72

1. 無線LAN設定(つづき)

[セキュリティレベル]と[カスタム]設定項目の関係

		WEP設定			WEP ファクター	暗号化 ビット数
		受信パケット を複合化する	暗号化されて いないパケッ トを破棄する	送信パケット を暗号化する		
セキュリティ レベル	無し	複合化 しない	設定無効 (破棄しない)	暗号化 しない	無効	無効
	低	複合化 する	破棄しない	暗号化 する	3	64ビット 暗号化
	中	複合化 する	破棄する	暗号化 する	0	64ビット 暗号化
	高	複合化 する	破棄する	暗号化 する	0	128ビット 暗号化

セキュリティレベルの設定 …… [⑨セキュリティレベル]を設定している機器同士が通信可能な[⑨セキュリティレベル]は、以下の表のとおりです。

(○：通信可能 ×：通信不可能)

※[⑨セキュリティレベル]が同じでも、通信対象となる相手間で[⑩キージェネレータ]の文字列が異なるときは、通信できません。

セキュリティ レベル	無し	低	中	高
無し	○	×	×	×
低	×	○	○	×
中	×	○	○	×
高	×	×	×	○

4 無線LAN設定

1. 無線LAN設定(つづき)

The screenshot shows the wireless LAN configuration interface. It is divided into several sections: 1. 無線LAN設定 (Wireless LAN Settings) with fields for ESS ID (1, 2, 3, 4) and ANY拒否 (5). 2. 無線詳細設定 (Wireless Detailed Settings) with fields for チャンネル (6), ダイバーシティアンテナを使用 (7), Rts/Ctsスレッシュホールド (8), セキュリティレベル (9), and キージェネレータ (10). 3. セキュリティレベル カスタム設定 (Security Level Custom Settings) with fields for 暗号化方式 (11), 受信/パケットの復号 (12), 送信/パケットの暗号化 (13), 暗号化ビット数 (14, 15), and WEPキー (16). A list of WEP keys is shown with a '全リスト表示' (17) link. 4. MACアドレスセキュリティ設定 (MAC Address Security Settings) with a field for MACアドレスセキュリティを使用 (18). 5. 登録の追加 (19) section with a MAC address input field and an '追加' button. 6. 現在の登録 (20) section with a table for '登録済みの端末', '受信中の端末', and '通信状況'.

⑱MACアドレス

セキュリティを使用 ……………

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。「する」を選択すると、同一ネットワークグループ内の通信において、[⑳現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスを持つ無線LANカードからのアクセスを防止します。

⑲登録の追加 ……………

この欄に対象となる無線LANカードのMACアドレスを入力して<追加>をクリックすると、[登録済みの端末]欄に登録されます。MACアドレスセキュリティが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスをもつ無線LANカードとだけ通信できます。

※最大256台分のMACアドレスが登録できます。

※入力は半角文字で12桁を入力します。

※入力後は<追加>をクリックして、[⑳現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

※MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。

(入力例：11-11-11-22-33-33、111111223333)

⑳現在の登録 ……………

本製品と無線で通信している端末の状況や登録済みの無線端末のMACアドレスを表示します。

登録されているMACアドレスは、<削除>で登録の削除が行えます。受信中の端末欄に表示されているMACアドレスで登録されていないものは、<追加>ボタンが表示されますので、それをクリックすると、その端末のMACアドレスが登録できます。

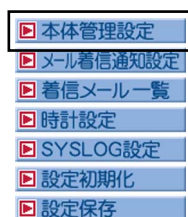
1.本体管理設定	50
2.メール着信通知設定	52
3.着信メール一覧	55
4.時計設定	56
5.SYSLOG設定	57
6.設定初期化	58
7.設定保存	59

5 本体設定

1. 本体管理設定

本製品の設定画面へのアクセスを制限するとき、設定を行います。

ルータタイプモデム接続



- ①<登録>ボタン …………… この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン …………… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID …………… 本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例：AP120B)
[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。
- ④管理者パスワード …………… [③管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例：****)
[管理者パスワード]を設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 …………… 確認のために、パスワードを再入力します。(表示例：****)
- ⑥本体MAC-ID …………… 本製品のMACアドレスを表示します。
※このMACアドレスは、本製品のシリアルシールにも記載しています。

1. 本体管理設定(つづき)



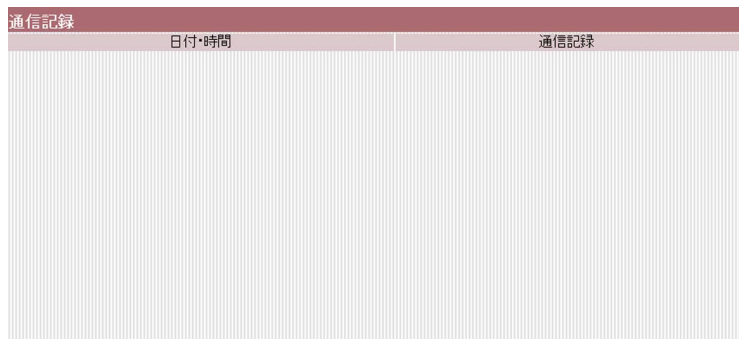
⑦webパターン 設定画面の色彩を選択します。(出荷時の設定：1)
「2」を選択すると、以下の色彩になります。



5

⑧通信記録 通信記録の詳細をリスト表示させるリンクです。
「通信記録の表示」の上にマウスカーソルを移動して、クリックしてください。

●通信記録表示



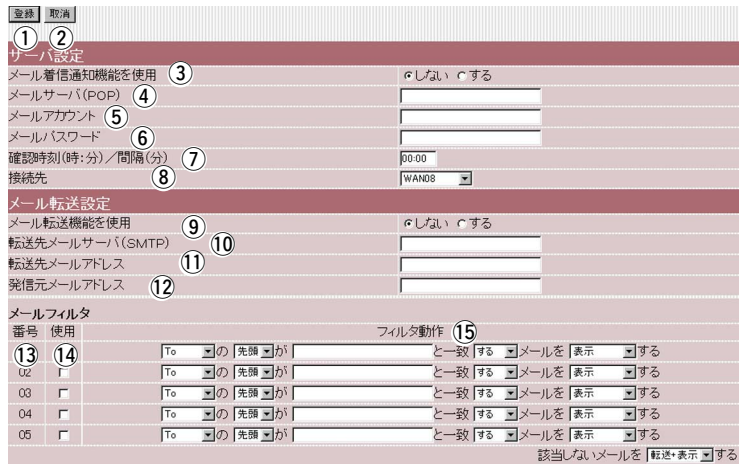
5 本体設定

2.メール着信通知設定

- ▶ 本体管理設定
- ▶ **メール着信通知設定**
- ▶ 着信メール一覧
- ▶ 時計設定
- ▶ SYSLOG設定
- ▶ 設定初期化
- ▶ 設定保存

- ①<登録>ボタン …………… この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン …………… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- サーバ設定 …………… 本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための設定をします。
※接続先が「PPPoE」の場合、接続設定が「手動接続」であっても、着信メールの確認は自動接続を行います。
※対応するプロトコルは、POP3だけです。
- ③メール着信通知機能を使用 …… メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。
この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の[POWER]ランプが高速点滅すると同時に、その内容を「3.着信メール一覧」(P55)に表示します。
- ④メールサーバ(POP) …………… メールサーバのサーバ名を入力します。
ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
※ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑤メールアカウント …………… メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。
※ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑥メールパスワード …………… メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

2.メール着信通知設定(つづき)



- ⑦確認時刻(時：分)/間隔(分) … メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。
時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位(5分以上)で入力します。
※時刻で指定したときは、「4.時計設定」(P56)の[③本体の時刻]に表示された時刻を基準に動作します。
- ⑧接続先 …………… メールサーバの接続先を選択します。
※この項目は、「PPPoE」を選択している場合にだけ表示します。
- 転送機能制限事項 …………… **表示可能文字数**
転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。
※制限を超えた文字列については、表示されません。
- ⑨メール転送機能を使用 …………… メール転送機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
※メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。
- ⑩転送先メールサーバ (SMTP) …………… 転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
※接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑪転送先メールアドレス …………… 転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ⑫発信元メールアドレス …………… メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ⑬番号 …………… 最大6(5+1)件のフィルターを登録できます。
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
01～05番の条件に該当しない場合は、最下欄の[該当しないメールを]で指定する内容にしがたがいます。

5 本体設定

2.メール着信通知設定(つづき)

登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③ しない する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ WAN0

メール転送設定

メール転送機能を使用 しない する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑨

転送先メールアドレス ⑩

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ

⑬ ⑭

フィルタ動作 ⑮

01	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する
02	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する
03	<input type="checkbox"/>	[To] の 先頭 が [C] と一致 [D] メールを [E] する
04	<input type="checkbox"/>	[To] の 先頭 が [C] と一致 [D] メールを [E] する
05	<input type="checkbox"/>	[To] の 先頭 が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを [転送+表示] する

⑭使用 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

⑮フィルタ動作 比較する対象になる条件を、この欄の[▼]印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。

下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする

●[A]：比較対象条件

- To : 宛先の文字列が対象
- Cc : カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
- From : 差出人の文字列が対象
- Subject : 件名の文字列が対象

●[B]：比較対象条件

- 一部 : 文字列の一部が対象
- 先頭 : 文字列の先頭が対象
- 末尾 : 文字列の末尾が対象

●[C]：比較対象条件

入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。

●[D]：比較対象条件

- する : 比較対象条件と一致するメールが対象
- しない : 比較対象条件と一致しないメールが対象

●[E]：比較対象条件/該当しないメールを

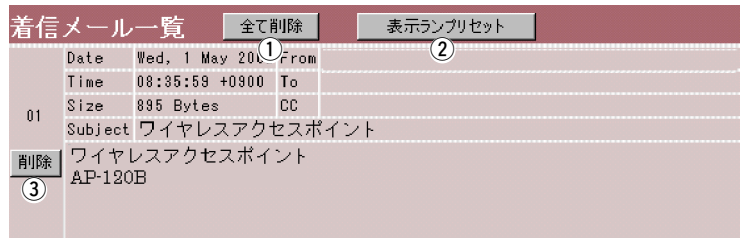
- 転送+表示 : 転送して表示する
- 表示 : 表示する
- 無視 : 表示しない

※新しい着信メールがあると、本製品の[POWER]ランプが高速点滅して、着信したことを通知します。

3.着信メール一覧

- ▶ 本体管理設定
- ▶ メール着信通知設定
- ▶ **着信メール一覧**
- ▶ 時計設定
- ▶ SYSLOG設定
- ▶ 設定初期化
- ▶ 設定保存

着信したメールの一覧を表示したり、着信通知表示を停止するとき使します。



①<全て削除>ボタン ……………

この画面に表示されているメールをすべて削除します。
※削除してもメールサーバのメールは削除されません。

②<表示ランプリセット>ボタン

クリックすると、高速点滅中の[POWER]ランプを消灯状態に戻します。

③<削除>ボタン ……………

フレーム内のメールだけを消去します。
※削除してもメールサーバのメールは削除されません。

■制限事項

最大表示件数：16件

表示が17件以上になると古い順に消去されます。
メールサーバに20件のメールがあるとすると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

※制限を超えた文字列については、表示されません。

※メールフィルターが有効な場合は、表示可能な文字数だけが、[メールフィルタ]で設定する条件の比較対象文字列として処理します。

※メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」で制限された範囲内の内容しか転送できません。

5 本体設定

4.時計設定

- ▶ 本体管理設定
- ▶ メール着信通知設定
- ▶ 着信メール一覧
- ▶ **時計設定**
- ▶ SYSLOG設定
- ▶ 設定初期化
- ▶ 設定保存

本製品の内部時計の設定を行います。

- ①<登録>ボタン この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 本製品の設定画面にアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
ルータタイプモデム接続
表示する時刻は、「時計設定」画面アクセス時に取得した時刻です。
※正確に設定したいときは、「時計設定」メニューまたはブラウザの<更新>ボタンをクリックしてから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス [NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。
最大99日まで設定できます。
[PPPoE]による手動接続では、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 タイムサーバにアクセスする予定日時を、[⑨前回アクセス日時]と[⑧アクセス時間間隔]で設定された日数より算出して表示します。

5.SYSLOG設定

指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。

ルータタイプモデム接続

- ▶ 本体管理設定
- ▶ メール着信通知設定
- ▶ 着信メール一覧
- ▶ 時計設定
- ▶ **SYSLOG設定**
- ▶ 設定初期化
- ▶ 設定保存

登録	取消	
①	②	SYSLOG設定
	③	DEBUGを使用 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
	④	INFOを使用 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
	⑤	NOTICEを使用 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
	⑥	ホストアドレス <input type="text"/>
	⑦	ファシリティ <input type="text"/>

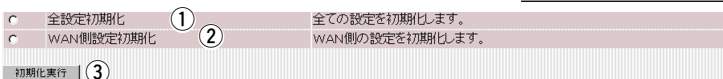
- ①<登録>ボタン この画面で設定した内容を確定するボタンです。
- ②<取消>ボタン この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
- ④INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
- ⑤NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)
- ⑥ホストアドレス SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ SYSLOGのファシリティを入力します。
0~23の値を設定してください。
(出荷時の設定：1)
通常「1」を使用します。

5 本体設定

6.設定初期化

選択した初期化条件で本製品の設定内容を初期化します。

ルータタイプモデム接続

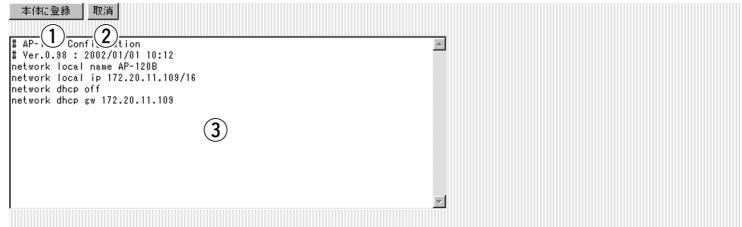


- ①全設定初期化 …………… 設定した本製品の全内容を、出荷時の設定に戻します。
- ②WAN側設定初期化 …………… WAN側に関係のある設定(WAN側設定、WAN側詳細設定、アドレス変換設定)だけを、出荷時の設定に戻します。
- ③<初期化実行>ボタン …………… 選択した[初期化条件]にしたがって、初期化を実行します。

7.設定保存

本製品の全設定内容を確認したり、設定した内容を設定ファイルとして保存を行います。

ルータタイプモデム接続



- ①<本体に登録>ボタン …………… 「内容表示」画面に表示された内容を、設定画面に書き込みます。
- ②<取消>ボタン …………… 「内容表示」画面に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。
- ③「内容表示」画面 …………… 全設定(変更含む)内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。
なお、各画面で設定されたパスワードやキージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。
そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

ICOM[®]

補足説明書



WIRELESS ACCESS POINT
AP-120B

ご参考に
Telnetガイド

ご参考に

Icom Inc.

2.オンラインヘルプ

コマンド一覧

オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

コマンドヘルプ

コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

コマンド名の補完

コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。

入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。

例) cl[Tab]→clear

複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。

例) r[Tab]→re
 re[Tab]→restart remote
 res[Tab]→restart

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。